国際協力特別賞

私たちにできる小さな一歩

栃木県立宇都宮白楊高等学校　３年　東原　瑠乃

ロシア軍によるウクライナの侵攻により、私たちの生活に必要なさまざまなものの値段が上昇しています。例えば、農業で考えてみると肥料や農薬、農業機械に使われるガソリンなどの燃料など、農業の生産に必要なさまざまなものに影響が出ています。この様な問題を解決していくためにどのような事ができるでしょうか。

まず、この問題を考える前に日本の食料自給率について理解することが必要だと思います。日本の食料自給率は年々減少し、令和3 年度の発表では、前年度より１パーセント高い38 パーセントでした。しかし、まだ他の先進国と比べて低いままです。なぜ、ここまで落ち込んでしまったのでしょうか。それは食の欧米化やグローバル社会が影響しています。かつて、日本人は米を主食として、副食におかずを食べる食事が中心でしたが、ファストフードや外食を利用する人が現在は多くなったからです。つまり、米から得られる熱量が減少してしまったためです。肉を生産する飼料は、原料を安く手に入る海外に依存してしまったため、国内の飼料の生産が少なくなってしまいました。今まで飼料の輸送コストなどにも気にかけていなかった私は、様々なものが値上げされて初めて餌問題に気づきました。そのため、農業高校で学ぶ私たちができることを真剣に考え、このままではいけないと思い、食料自給率の数値に注目し、この数字を上げるための取り組みを考えたのです。

私は高校で畜産を専攻しています。令和3年度の日本の飼料自給率数値だけを見るととても低いと感じてしまいますが、国内で生産している牛や豚は約51パーセント、鶏卵は96 パーセント（平成30 年度）が日本で飼育され、生産されていると発表されていました。ですが、生産に必要な飼料のほとんどが外国産の飼料を利用しているため、食料自給率の換算方法では、外国産と見なしてしまうのです。そのため、最終的な数値が低下してしまうのです。そこで、私たちは国産飼料４割を目指し、飼料の改良の研究に取り組みました。飼料に国産木材を原料としたクラフトパルプと国産米を原料としたSGS を配合した飼料を用いることで飼料自給率を向上させたいと研究を始めました。

日本では以前植えた森林の伐採が今、多く行われています。森林を伐採してあらたに苗木を植え、森林を更新することで地球温暖化や災害への防止にも役立ち、伐採された木材を飼料に活用することで、森林の循環が可能となるのです。 SGS は、飼料用米を乾燥せずに保存したものを示し、牛に給餌すると消化率や発酵品質が向上すると言われ、クラフトパルプの原料だけの餌では牛は食べませんでしたが、SGS を飼料に配合することで味や香りが良くなり、牛の食欲向上が確認できました。私たちの研究の成果は来年の秋に分かるので期待したいと思います。米の消費量が減少しているため、米余り現象や耕作放棄地の問題など様々な課題の改善につながる研究だと思っています。畜産の実習では餌を作ったり、敷料を変えたり、力のいる作業が多く、大変ですが、動物の命を頂くためには動物たちが暮らしやすい環境や品質向上のために、安全で安心して給餌できる国産の飼料の活用が大切になります。このような農家が抱えている課題を私たち消費者が理解し、消費することが、日本の食料自給率の向上や農家の経営改善において大事なことだと思いました。

食のグローバル化が進んでも食事の一品でも国産のものを取り入れ、食生活の見直しをすることも私たちにできる小さな一歩だと思います。このように、ウクライナの侵攻によりさまざまなものが値上がりして、私は日本の農業の課題が発見できました。何気ない身近なことでも、自分でできることを探し、私たちにできる小さな一歩が日本の将来につながると思います。